

令和7年度 木曽森林管理署南木曽支署の概要



国民の森林・国有林

林野庁 中部森林管理局

木曽森林管理署 南木曽支署



空木岳（南駒ヶ岳から望む）



柿其溪谷の紅葉



荘厳な木曾ヒノキ



青く流れる阿寺溪谷

目 次

○沿革・・・・・・・・・・・・・・・・	1
○概要・・・・・・・・・・・・・・・・	2
○主な業務	
公益的機能の発揮・・・・・	4
森林・林業への貢献・・・・・	8
山村地域の振興と	
森林の総合利用・・・	11
○組織・位置など・・・・・・・・	13

沿革

藩有林時代 元和元年(1615年)

・江戸時代の築城、武家屋敷建築などで木材確保のため木曽谷の森林伐採が進み、森林資源が急速に失われ、尾張藩は(1665年)留山(とめやま)・巢山(すやま)制度により藩以外の伐採を厳しく規制する政策がとられました。

官林時代、明治2年(1869年)

・版籍奉還によって「藩有林」は「官林」になりました。

御料林時代、明治22年(1889年)

・明治22年皇室典範の制定に伴い「帝室御料林」となり御料局木曽支庁妻籠出張所が設置され、後に帝室林野管理局に改組し、三殿、阿寺(野尻)出張所も設置されました。

国有林時代、昭和22年(1947年)から現在

- ・昭和22年「御料林」は国有林に編入
長野営林局妻籠営林署、三殿営林署、野尻営林署、坂下営林署を設置
- ・昭和54年 妻籠営林署を三殿営林署に統合
- ・昭和57年 南木曽営林署(改称)、野尻営林署、坂下営林署
- ・平成11年 中部森林管理局木曽森林管理署南木曽支署、野尻事務所、坂下事務所

(改組)

- ・平成13年 木曽森林管理署南木曽支署(統合)



平成31年1月に竣工した新庁舎

建築面積：259.58㎡
延べ面積：458.58㎡
構造・規模：木造 地上2階

南木曽支署庁舎(長野県木曽郡南木曽町読書3650-2)に利用した木材に係る炭素貯蔵量(CO₂換算)

延べ床面積	国産材 利用量	国産材の 炭素貯蔵量 (CO ₂ 換算)	木材全体 利用量	木材全体の 炭素貯蔵量 (CO ₂ 換算)
458.56 ㎡	105 ㎡	76 t-CO ₂	106 ㎡	78 t-CO ₂

この表示は、林野庁「建築物に利用した木材の炭素貯蔵量の表示ガイドライン」(令和3年10月1日付け3林政産第85号林野庁長官通知)に準拠し、この建築物に利用した木材が貯蔵している炭素(CO₂換算)の量を示すものです。
木材は、森林が吸収した炭素を貯蔵しており、木材を建築物等に利用していくことは、「都市等における第2の森林づくり」としてカーボンニュートラルへの貢献が期待されています。

【計算式】

木材の材積(㎡)×密度(t/㎡)×炭素含有率×44/12=炭素貯蔵量(CO₂換算)(t-CO₂)

【計算】

○製材	ヒノキ	23.3 ㎡	×	0.383 t/㎡	×	0.500	×	44/12	=	16.4 t-CO ₂
○集成材	ヒノキ	2.02 ㎡	×	0.383 t/㎡	×	0.500	×	44/12	=	1.4 t-CO ₂
○製材	スギ	51.6 ㎡	×	0.331 t/㎡	×	0.500	×	44/12	=	31.2 t-CO ₂
○合板	カラマツ	27.7 ㎡	×	0.542 t/㎡	×	0.493	×	44/12	=	27.2 t-CO ₂
○製材	ベイマツ	1.6 ㎡	×	0.479 t/㎡	×	0.500	×	44/12	=	1.4 t-CO ₂
○製材	ヤチダモ	0.004 ㎡	×	0.479 t/㎡	×	0.500	×	44/12	=	0.004 t-CO ₂
										計
										77.6

※ 木材使用量は、支署庁舎車庫(延べ床面積17.82㎡)1棟に使用した木材使用量を含みます。

(責任者名) 中部森林管理局 総務企画部 経理課 経理課長 (連絡先) TEL 050-3160-6527
中部森林管理局 総務企画部 専門官(契約適正化・債権管理担当) (連絡先) TEL 050-3160-6533

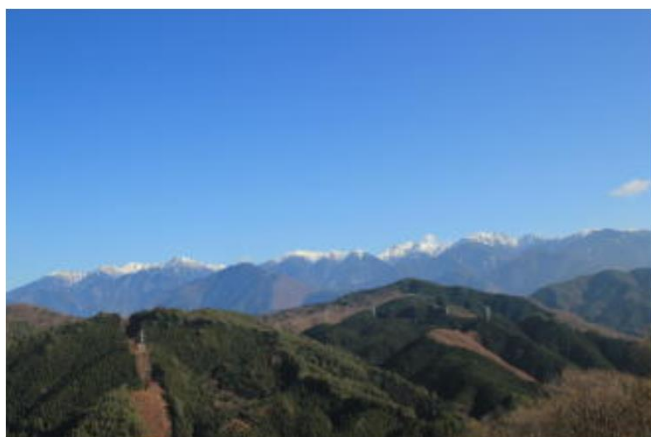
管内の概要

木曽森林管理署南木曽支署管内は、島崎藤村の「夜明け前」で「木曽路はすべて山のなかである。」と紹介されるように、長野県木曽郡の大桑村と南木曽町の区域面積の合計45千haの95%に当たる43千haが森林であり、この森林の75%に当たる32千haが国有林です。

これらの国有林は、海拔330mの木曽川沿の賤母(しずも)国有林から「日本の屋根」といわれる中央アルプスの海拔2,864mの空木岳(うつぎだけ)まで広く分布し、その多くは急峻な地形であり、木曽川下流の中京圏の生活用水、工業用水の重要な水源の源流域に位置しています。

また、管内の国有林には原生的な森林も多く分布し、ハナノキなどの生息地として学術的に重要な森林も少なくありません。さらに四季折々に表情を変え私たちの心を和ませてくれる景観が美しい森林は、日本の滝百選にも選ばれた田立の滝など森林浴を楽しめる場所もあります。

一方、管内の国有林から産出される樹齢100年を超える人工林ヒノキ等の木材は、地元伝統工芸はもとより、住宅や公共建築物、歴史的・文化的建造物などの材料に利用され、私たちの生活を豊に潤いのあるものになっています。



中央アルプス



急峻な山間を流れる木曽川(南木曽町)



ハナノキ



ヒメシャガ

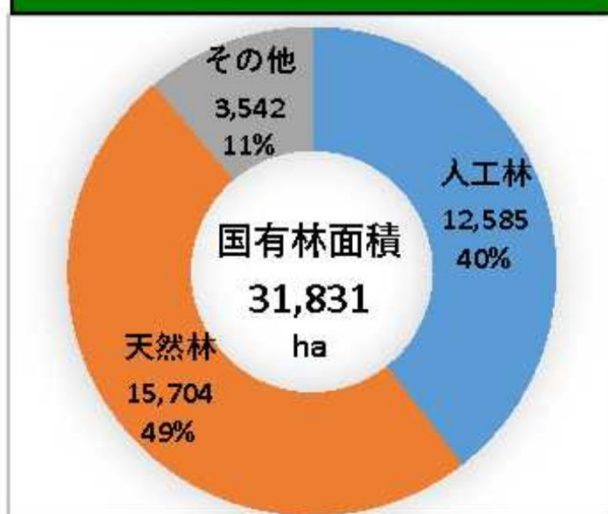
森林の内訳

管内の国有林は、49%が針葉樹、広葉樹からなる天然林、40%がヒノキなどの人工林、残る11%が高山帯の岩石地等となっています。

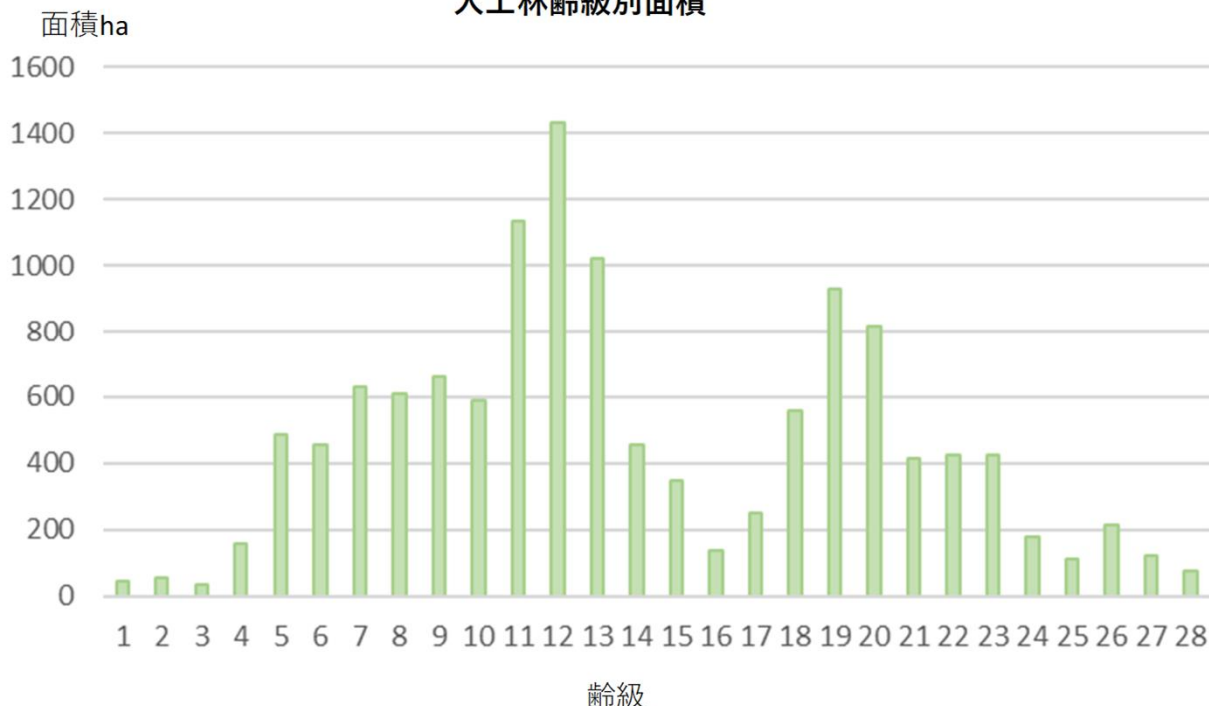
人工林は30～60年生（6～12齢級※）の生育期の林分が46%を占めており、健全で活力ある森林の育成のため、また、二酸化炭素吸収による地球温暖化防止のために間伐などの森林整備を積極的に進めています。

一方で、林業の先進地として明治、大正、昭和初期に植栽後、森林整備を行い林齢75年（15齢級）を超えたヒノキなどの人工林が38%を占め、次代の「木曾ひのき」として育ちつつあります。

国有林の人工林・天然林別面積



人工林齢級別面積



※齢級とは、林齢を5年ごとにくったもので、1齢級は1～5年生を表します。

主な業務

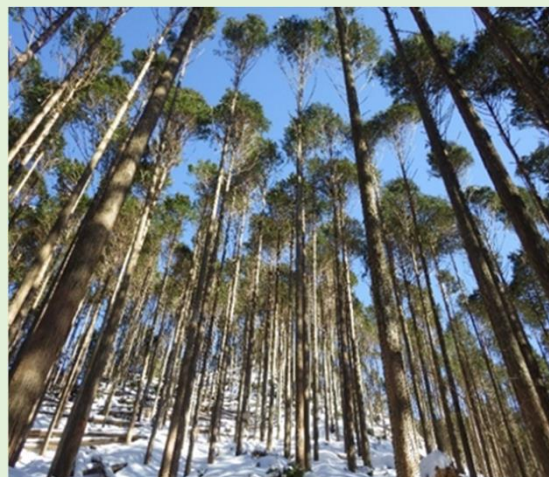
公益的機能の発揮

森林整備事業

森林の公益的機能を発揮させ、地球温暖化防止のための二酸化炭素の森林吸収源対策を推進するため、間伐などの森林整備を計画的に実施し伐採年齢の長期化、複層林化、天然力を活用した針葉樹・広葉樹の混交林化など、百年先を見通した多様で健全な森林づくりを進めています。



昼でも暗い林(間伐実施前)



明るくなった林(間伐実施後)

また、効果的・計画的に森林整備をすすめるためには、路網の整備が不可欠であることから、その基幹となる林道・作業道などを開設しています。こうした路網の整備に当たっては、崩れにくく自然とも調和した工種・工法の採用と併せ間伐材の利用にも取り組んでいます。



治山事業

治山事業は、山地災害の防止、生活環境の保全等、森林の持つ公益的機能の発揮が特に必要な保安林等において、豪雨、地震等に起因して発生する山地災害から国民の生命・財産等への被害を最小限にとどめ、地域の安全性の向上に資することを目的として実施しています。木曽森林管理署南木曽支署管内における治山事業は、歴史が極めて古く、明治38年 御料林時代において初の治山工事が 大桑村 阿寺国有林の「悪澤」において実施され、特に、昭和34年「伊勢湾台風」や昭和36年「三六災害」など、集中豪雨を起因とする土砂災害では、甚大な流域荒廃が生じ、以降、多くの治山施設が設置され、今日まで集中豪雨等により発生した山腹及び溪流荒廃地の復旧を図ってきています。(昭和25年 局直轄の妻籠治山事業所、昭和35年に木曽川第二治山事業所が設置される。)

今までに南木曾支署管内で行われてきた治山事業は流域面積31,783.01haで、治山ダム936基、護岸工25箇所、山腹工1,680箇所（復旧面積536ha）を実施しています。（令和4年3月末現在）

【治山事業の主な工法】

山腹工

山崩れやなだれなどで荒廃した山の斜面について、斜面が崩れたり、土が流れ出さないよう、土留工、水路工、緑化工などの工事を行い、緑豊かな山に戻します。



施工前



施工後

溪間工

土石流によって荒廃した溪流や、荒廃のおそれのある溪流について、治山ダムを設置するなど、安全できれいな流れの川にするための工事を行います。



施工前



施工後

地すべり防止工

動いている地すべりを止めたり、地すべりしそうな場所を予防するため、地中の水を抜いたり、杭を打って土を動かないようにする工事を行います。（南木曾支署での施工実績なし）

保安林整備

樹木の健全な成長及び植生の生育促進を図り、保安林の公益的機能の維持・強化を目的に、植栽木等の本数を調整する間伐(本数調整伐)等を行います。



施工前



施工後

【私たちの暮らしを守る保安林】

保安林には、その目的によって水源涵養保安林等、全部で17種類の保安林があります。私たちの暮らしを守るために特に重要な役割を果たしている森林を保安林に指定し、その働きが失われないように伐採を制限したり、適切に手を加えるなど、多大な森林の働きを維持できるよう管理を行っています。

南木曽支署管内の保安林

南木曽支署管内の国有林野面積の約99%(南木曽町:98% 大桑村:99%)にあたる31,359haが保安林に指定されており、その内訳は水源涵養保安林が90%、土砂流出防備保安林が10%となっています。

1 水源かん養保安林



森林レクリエーション活動の場として、生活にゆとりを提供します。
また、空気の浄化や騒音の緩和に役立ち、生活環境を守ります。

2 土砂流出防備保安林



樹木の根と地面を覆う落ち葉や下草が、雨などによる表土の浸食、土砂の流出、崩壊による土石流などを防ぎます。

【山地災害危険地区】

日本は地形・地質、気候条件から山地災害が起こりやすい特性があります。山地に起因する土砂災害が多発し被害が甚大化する中、林野庁や都道府県では、人家、道路などの保全対象に直接被害がおよぶ恐れがある地区について、地質・地況（傾斜、土壌深等）・林況（樹種、齢級）・保全対象の数量等について調査を行い、基準以上のものを三つの種類（山腹崩壊危険地区・崩壊土砂流出危険地区・地すべり危険地区）に区分し、山地災害の危険度を危険性の高い順にA・B・Cランクに分類した山地災害危険地区として設定しています。

山腹崩壊危険地区

山腹崩壊（落石を含む）による災害が発生するおそれがある地区

崩壊土砂流出危険地区

山腹崩壊や地すべりによって発生した土砂などが土石流となり、災害が発生するおそれがある地区

地すべり危険地区

地すべりによる災害が発生するおそれがある地区

南木曽支署管内の山地災害危険地区

南木曽支署管内の国有林には193箇所（山腹崩壊危険地区53箇所、崩壊土砂流出危険地区140箇所）があり、この地区を対象に治山工事を実施し災害防止を図っています。

※ 山地災害危険地区は中部森林管理局HPにて確認できます

中部森林管理局HP: <http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/chisan/kikentiku.html>

【優れた自然環境を有する森林の保全・管理】

保護林

希少な植物等が生育する森林の多様で貴重な森林生態系の維持・保存などを目的に保護林を指定しています。原則として自然の推移に委ね保護・管理し、野生生物・遺伝資源の保護や学術研究等に寄与します。

南木曽支署管内の保護林

名 称	面積 (ha)	概 要
中央アルプス木曽駒ヶ岳森林生態系保護地域	1,813	気候が日本海型気候から太平洋型気候の推移帯、標高が低山帯から高山帯にある原生的で多様な生態系(面積は、木曽森林管理署分を含む)
木曽生物群集保護林 (悠久の森)	10,392	世界的に希少な天然のヒノキ、サワラ等を含む温帯性針葉樹林(面積は、木曽森林管理署及び東濃森林管理署分を含む。)
賤母生物個体群保護林	251	暖帯、温帯の接点に当たり500種以上の植物が生育
南木曽岳生物個体群保護林	673	木曽ヒノキ、コウヤマキ等の木曽五木その他、林床にキョウマルシャクナゲが生育



木曽生物群集保護林の保存地区



南木曽岳生物群集保護林の
コウヤマキの純林

森林・林業への貢献

森林施業の効率化・低コスト化

林業の成長産業化の実現のためには、森林施業の低コスト化等を進めて林業を「もうかる産業」にし、森林所有者等へ利益を還元できる体制を構築する必要があります。そのため、国有林としては、伐採・造林一貫作業システムによる主伐・再造林コストの低減をはじめ、保育作業や間伐作業における低コスト化等について、フィールドや技術力を活かして取り組み、民国連携の取組を通じて民有林への技術の普及を図っています。



作業路網作設



スイングヤードで間伐した木材を集める



プロセッサにより一定の長さに切断



フォワーダで林道まで丸太運搬

コンテナ苗の普及

「植栽時期が広がる」「植栽が簡単」等の特徴を有し、大規模な苗畑を持たなくても生産ができ、地拵や下刈の省力化が期待できるコンテナ苗を植栽しコンテナ苗の普及に取り組んでいます。



林産物の供給

国有林では水源のかん養や自然環境の保全などを十分配慮しながら、間伐等の森林整備を通じて生産される木材の持続的かつ計画的な供給に努めています。



JR南木曽駅に隣接する三殿土場

人工林材のブランド化

管内の国有林から生産される林齢80年以上の人工林ヒノキを「**高**（**国**）木曽ひのき」（南）、通称：「マルコウマルコクキソヒノキ」として生産・販売します。



高（**国**）木曽ひのき（南）

木材利用の推進

林道や治山などの土木工事、庁舎建築への木材利用、間伐材を使った木製品の使用に積極的に取り組むほか、「木づかい運動」を通じ地球温暖化防止対策に資する木材利用の積極的なPRを推進しています。



間伐材を利用した溪間工



南木曽町妻籠宿の木橋

D材（末木・枝条、端材等）の販売

国産材を主な原料とする大型の製材工場や木質バイオマス発電施設などが次々と稼働を開始する中、需要先への安定供給が課題となっており、民有林と連携した安定供給システム等による計画的な供給を推進しています。

その際、大量の木質資源を必要とする木質バイオマス発電所の事業者に対しては、D材の有効活用が図られるよう、伐採・造林一貫作業システムにより事業を実施する箇所等において、D材搬出型生産請負事業によりD材販売に引き続き取り組むとともに、立木販売・素材生産事業地で発生するD材情報の提供についても引き続き実施することにより、D材の供給拡大及び地持えコストの縮減への寄与に努めています。



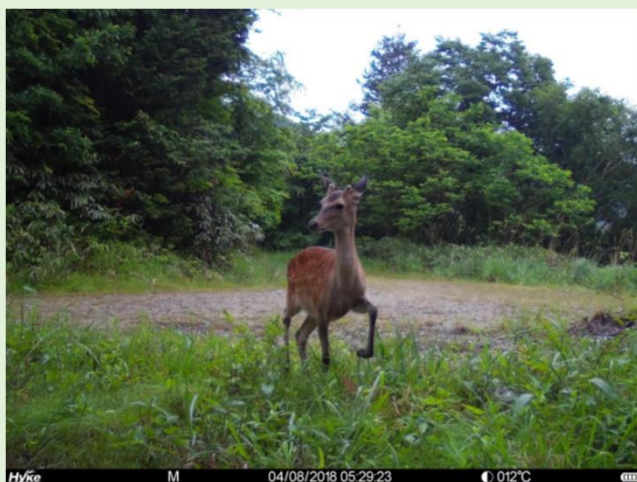
D材の回収



Dバイオマス燃料用に粉砕されたチップ

ニホンジカ被害対策

ニホンジカの被害対策に係るこれまでの調査等により、木曽地域の個体数は低密度で推移し、森林被害も県内の激害地域に比べ少ない状況にあります。今後、他地域からの侵入により森林被害の増加が懸念されることから、地方自治体等との情報共有・連携、長距離無線式捕獲パトロールシステムを活用した委託捕獲に取り組んでいます。



センサーカメラで撮影されたニホンジカ

山村地域の振興と森林の総合利用

管内観光地の背景林

管内の森林の多くは溪谷や滝群と一体となった景勝地あるいは文化財の背景林でもあります。国土保全や自然環境との調和を図りつつ、トレッキング等を通じた森林浴など「レクリエーションの森*」づくりにも取り組んでいます。また、中山道妻籠宿などの背景林は、重要伝統的建造物群保存地区、郷土環境保全地区にも指定されています。



南木曽町中山道妻籠宿の背景の山(伊勢山)

* 管内のレクリエーションの森は、「阿寺」「田立の滝」「大平峠」の風致探勝林3箇所で392ヘクタール



阿寺溪谷(大桑村)



田立の滝(南木曽町)

木の文化を支える森林づくり

地域の伝統工芸、歴史的建造物などの継承に貢献するため、地域の協議会などと協定を締結し協働で森林整備を行うことにより、木の文化を支える森づくりに取り組んでいます。



「南木曽ろくろ細工」「蘭桧笠」



「原皮師」(もとかわし)による「檜皮」の採取

国民参加の森林づくり

森林は「緑のダム」ともいわれており、豊かな森林に囲まれた当地は、地元や中京圏などの「水のふるさと」になっています。また、これら森林は地域文化の基盤であり観光資源でもあります。このことから、森の中で、森林の役割を学ぶ森林教室や視察会、地方行政や住民、各種ボランティア団体等と協働した森林整備などを通じて「国民参加の森林づくり」に取り組んでいます。

植樹祭・森林環境教育等

町村と合同植樹祭等、国有林をフィールドとした森林教室や、植林・間伐などの森林・林業体験等を行っています。



南木曽町と合同植樹祭



大桑村と合同植樹祭



大桑小学校(森林教室・鉛筆づくり)



南木曽小学校(森林教室・自然散策)



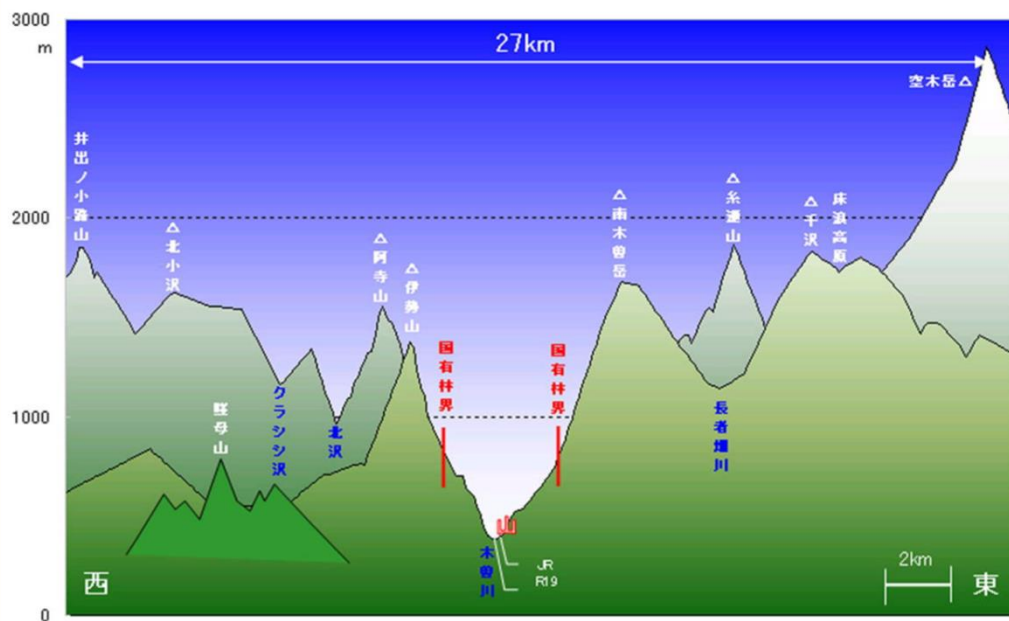
犬山中学校(森林教室)



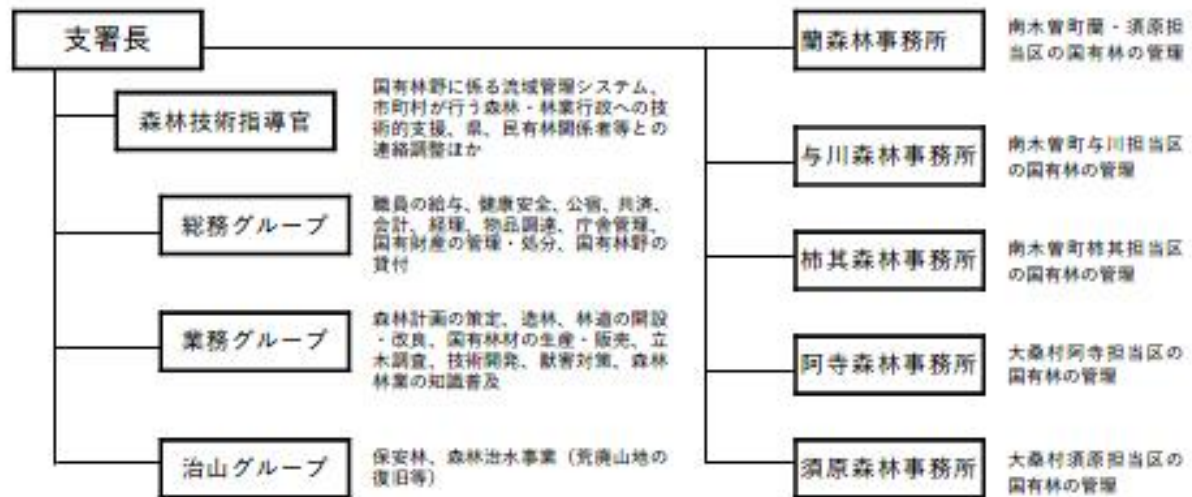
長野県林業大学校(檜皮採取見学)

組織・位置など

管内図



組 織



令和7年4月1日現在													
区分	支署長	指導官	総務G	業務G	治山G	小計	南	与川	柿其	阿寺	須原	小計	計
行I	1	1	4	8	3	17	1	1	1	1	1	5	22
行政専門員				1		1		1				1	2
森林技術員						0	1			1		2	2
行政専門員						0						0	0
小計	1	1	4	9	3	18	2	2	1	2	1	8	26
非常勤職員			3	2		5						0	5
小計													
計	1	1	7	11	3	23	2	2	1	2	1	8	31

名 称	住 所	電 話
木曽森林管理署 南木曽支署	〒399-5301 長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	050-3160-6070
南森林事務所 (首席森林官)	〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻3398-3	0264-58-2418
与川森林事務所 (森林官)	〒399-5301 長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	0264-57-3428
柿其森林事務所 (森林官)	〒399-5301 長野県木曽郡南木曽町読書1912-1	0264-57-3030
阿寺森林事務所 (森林官)	〒399-5504 長野県木曽郡大桑村野尻1223-1	0264-55-3215
須原森林事務所 (森林官)	〒399-5502 長野県木曽郡大桑村須原1058-1	0264-55-3144